

慶應義塾大学SFC研究所
X.SDG Lab.



金融 x SDGs

2019年3月6日

Future Earth Tokyo Workshop on Finance

慶應義塾大学大学院教授

蟹江憲史

平成31年 SDGsの現状と課題

1. 次の一歩へ

- 企業：CSR（2016）→経営層（2017）→部課長クラス（2018）⇒⇒

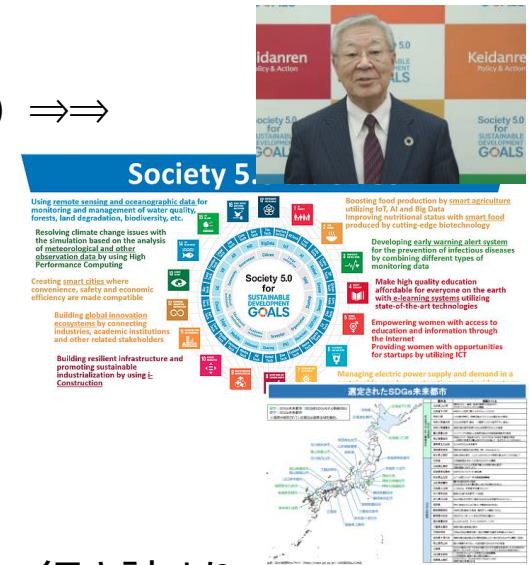
2019年は大企業から中小企業へ

- 省庁（外務省・内閣府・環境省→経産省・金融庁）⇒⇒

2019年はG20と国連総会を契機にアクション創出へ

- 教育・研究（中高生・大学（の経営））⇒⇒

大学生は社会（SDGs）への貢献で就職先を選ぶ時代へ



⇒ 「重要そう」「可能性がありそう」だが「何をどうやればいいのか？」で行き詰まり

⇒⇒ **本格的アクション創出へ**

2. 課題

- 認知向上：中小企業における認知向上はどうすればよいか？

⇒ **行政の役割と企業の「利益」をめぐる認識変化**

- バリューチェーンへのヒモ付け（でも新たなアクションは起こさない）を超えたアクション創出のための仕掛けをどうするか？

⇒ **企業価値の向上・中長期的尺度でのリターン向上へ**

⇒ **優良事例収集と共有・学習機会の創出**





『SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「**誰一人取り残さない**」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「**人間の安全保障**」の理念に基づき、世界の「**国づくり**」と「**人づくり**」に貢献していく。
- 『SDGsアクションプラン2019』では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、2019年におけるより具体化・拡大された政府の取組を盛り込んだ。
- 2019年の**G20サミット**、**TICAD7**、**初のSDGs首脳級会合**等に向けて、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との連動を踏まえつつ、以下の分野において**国内実施・国際協力**の両面においてSDGsを推進。

I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

中小企業におけるSDGsの取組強化

- 大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組を強化。
- 「SDGs経営／ESG投資研究会」の開催等を通じて、『**SDGs経営イニシアティブ**』を推進。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言を踏まえ、企業の取組を促進。
- 『中小企業ビジネス支援事業』を通じた**途上国におけるSDGsビジネスの支援**。

イノベーション(STI)の推進

- 統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『**ロードマップ**』や**そのための「基本指針」**を策定。「**STI for SDGsプラットフォーム**」の立ち上げも準備。
- **STIフォーラム**やG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。

II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

SDGsを原動力とした地方創生

- **SDGs未来都市の選定**、**地方創生SDGs官民連携プラットフォーム**等を推進。
- **2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会**、**2025年大阪・関西万博**を通じたSDGsの推進。
- ICT等**先端技術を活用した地域の活性化**。
- **スマート農林水産業**の推進。

強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築

- **国内外における防災の主流化**の推進。
- **質の高いインフラ**を通じて連結性を強化。
- **海洋プラスチックごみ対策**を含む持続可能な海洋環境の構築。
- **地域循環共生圏づくり**の推進。
- 日本の技術・経験を活かした**気候変動対策**への貢献。
- **省エネ・再エネ等**の推進。

III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

次世代・女性のエンパワーメント

- 「**次世代のSDGs推進プラットフォーム**」を始動し、国内外における具体的な取組を推進。
- 3月に同時開催する**WAW!(国際女性会議)**と**W20(G20エンゲージメント・グループ会合)**において女性活躍のための方途について議論。

教育・保健分野における取組

- 国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「**質の高い教育**」を実施。
- G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、**国際教育協力**や**UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)**を推進。

展開とフォローアップ

- 日本のSDGsモデルを、**東南アジア・アフリカを重点地域**としつつ、国際社会に展開していく。
- 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、**2019年後半に『SDGs実施指針』を改訂**。

SDGsと超学際 (transdisciplinarity) 研究

Future Earth: 持続可能な地球社会のための知を生み出す国際的研究連携のプラットフォーム

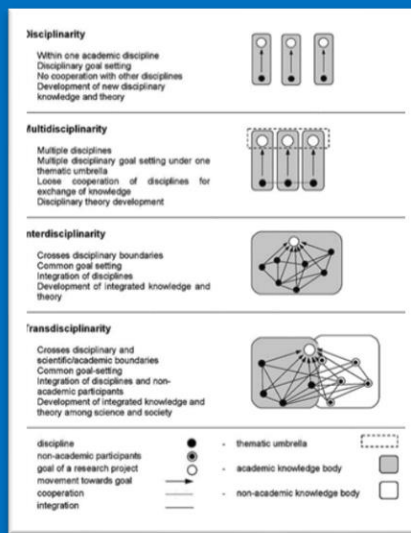
- 科学の統合 (人文社会科学・自然科学の連携・統合)
- 社会との知の共創と共有による複合的課題解決 (社会のステークホルダーとの超学際的連携・協働)

Co-design, Co-production, Co-delivery



futureearth
research for global sustainability

研究課題の設定、
アウトプットの創出、
実現プロセスで研
究者と政策担当
者・ステークホル
ダーが協働



Introductions to the Process of The Open Working Group on Sustainable Development Goals

1. The Rio+20 outcome document, *The Future We Want*, inter alia, set out a mandate to establish an Open Working Group to develop a set of sustainable development goals for consideration and appropriate action by the General Assembly at its 66th session. It also provided the basis for their conceptualization. The Rio outcome gave the mandate that the SDGs should be consistent with and integrated into the UN development agenda beyond 2015.

2. Poverty eradication is the greatest global challenge facing the world today and an indispensable requirement for sustainable development. The Rio+20 outcome reiterated the commitment to freeing humanity from poverty and hunger as a matter of urgency.

3. Poverty eradication, changing unsustainable and promoting sustainable patterns of consumption and production and protecting and managing the natural resource base of economic and social development are the overarching objectives of and essential requirements for sustainable development.

4. People are at the centre of sustainable development and, in this regard, Rio+20 promised to strive for a world that is just, equitable and inclusive, and committed to work together to promote sustained and inclusive economic growth, social development and environmental protection and thereby to benefit all, in particular the children of the world, youth and future generations of the world without distinction of any kind such as age, sex, disability, culture, race, ethnicity, origin, migratory status, religion, economic or other status.

5. The OWC also reaffirmed all the principles of the Rio Declaration on Environment and Development, including, inter alia, the principle of common but differentiated responsibilities, as set out in principle 7 thereof.

6. It also reaffirmed the commitment to fully implement the Rio Declaration, Agenda 21, the Programme for the Further Implementation of Agenda 21, the Plan of Implementation of the World Summit on Sustainable Development (Johannesburg Plan of Implementation) and the Johannesburg Declaration on Sustainable Development, the Programme of Action for the Sustainable Development of Small Island Developing States (SIDS) (Bridges Programme of Action) and the Mauritius Strategy for the Further Implementation of the Programme of Action for the Sustainable Development of Small Island Developing States. It also reaffirmed the commitment to the full implementation of the Programme of Action for the Least Developed Countries for the Decade 2011–2020 (Istanbul Programme



SDGs – 持続可能な開発目標 ～ 2030年の世界の姿 ～

2030年への
世界目標

17目標
169ターゲット
232 (244) 指標

全ての国・企
業等の主体に
普遍的に適用

進捗レビュー
(法的義務なし)



1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

世界の変革

だれ一人取り残されない



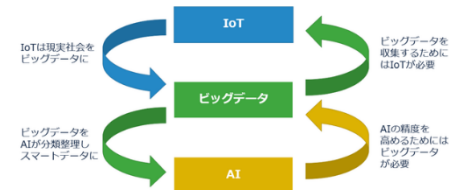
SDGsの特徴: 3つの新しさ

1. 新しい仕組み：ルール作りではなく目標作りからはじまるガバナンス
 - － 野心レベルの提示からスタート→ バックキャスティング
 - － 実施メカニズム・法的拘束力なし→ 各主体が自由に・テクノロジーも活用（イノベーション）
 - － 進捗評価のみ → 測る（ビッグデータの活用）

2. 新しいものさし：新たな測り方



3. 新しいアプローチ：17の視点から総合的に検討



TOYOTA ENVIRONMENTAL CHALLENGE 2050



「ゼロの世界」ととどまらない「プラスの世界」を目指すため、トヨタは成し遂げるべき6つのチャレンジを掲げます。気候変動や資源・水の循環など、どのチャレンジも困難なものばかりですが、2050年に向けて、社会とともに持続的に発展できるよう取り組みを着実に進めていきます。

CHALLENGE 1

新車CO₂ゼロチャレンジ



世界中で地球温暖化が進んでいます。トヨタは新車のCO₂を2050年に2010年比90%削減を目指し、次世代車開発を促進、普及を加速していきます。

more >

CHALLENGE 2

ライフサイクルCO₂ゼロチャレンジ



トヨタはクルマの素材製造から部品・車両製造、走行、廃棄までのすべての工程をふくむライフサイクル全体で、CO₂ゼロに近づけることを目指しています。

more >



2010 → 2050



トヨタはクルマの素材製造から部品・車両製造、走行、廃棄までのすべての工程をふくむライフサイクル全体で、CO₂ゼロに近づけることを目指しています。

more >

CHALLENGE 3

工場CO₂ゼロチャレンジ



トヨタは生産工場で「低CO₂技術の開発・導入と日常カイゼン」と「再生エネルギー活用と水素利用」の両輪によりCO₂ゼロを目指していきます。

more >

CHALLENGE 4

水環境インパクト最小化チャレンジ



クルマの製造では塗装や焼付工程などで水を使用します。使う量を徹底的に減らし、使った水も徹底的にきれいにして返すことで、環境への影響を最小限にすることを目指していきます。

more >

CHALLENGE 5

循環型社会・システム構築チャレンジ



トヨタは40年前から資源循環に取り組んでいます。今後はその蓄積された技術・システムを世界へと広げ、グローバルな循環型社会の構築に貢献していきます。

more >

CHALLENGE 6

人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ



トヨタは地域の豊かな森や自然を守る取り組みを続けています。自然と人の共生を目指し、活動を地域とつなぎ、世界へつなぎ、未来にもつないでいきます。

more >

6つのチャレンジの実績・進捗と今後の取り組み

トヨタ環境チャレンジ2050	
 CHALLENGE 1 CO ₂ 0 新車CO ₂ ゼロ	2050年グローバル新車平均走行時CO₂排出量の90%削減(2010年比)を目指す 【取り組み】 「省エネルギー」と「燃料多様化への対応」の観点から次世代車普及のさらなる加速を図る <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車のグローバルでの普及を加速 ・燃料電池自動車、電気自動車などのZEV*の普及を加速 *1 ZEV (Zero Emission Vehicle) : 走行時にCO ₂ を一切出さないクルマ
 CHALLENGE 2 CO ₂ 0 ライフサイクルCO ₂ ゼロ	ライフサイクル全体でのCO₂排出ゼロを目指す 【取り組み】 材料製造から部品・車両製造、走行、廃棄までのライフサイクル全体でCO ₂ を削減 <ul style="list-style-type: none"> ・低CO₂材料の開発・使用拡大など、材料製造時のCO₂削減 ・リサイクル材料の使用拡大など、環境配慮を推進
 CHALLENGE 3 CO ₂ 0 工場CO ₂ ゼロ	2050年グローバル工場CO₂排出ゼロを目指す 【取り組み】 生産工場で「低CO ₂ 技術の開発・導入と日常改善」と「再生可能エネルギー活用と水素利用」を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・工程のシンプル・スリム化、革新的な省エネを進め、新設工場での台当たりCO₂排出を2030年には3分の1(2001年比)を目指す ・2020年ごろを目指して田原工場に風力発電を設置するなど、再生エネを活用
 CHALLENGE 4 水環境インパクト最小化	各国地域事情に応じた水使用量の最小化と排水の管理 【取り組み】 水量と水質の2つの側面から活動を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・生産工程内での水使用量削減はもとより、雨水利用による工業用水使用量の削減や水の再利用率向上 ・厳しい水質基準で排水の水質を管理し、自然にとって良い水質で地域に還すことで、地域環境に貢献
 CHALLENGE 5 循環型社会・システム構築	日本で培った「適正処理」やリサイクルの技術・システムのグローバル展開を目指す 【取り組み】 「エコな素材を使う」「部品を長く使う」「リサイクル技術の開発」「廃棄されるクルマからクルマをつくる」の4本柱で、循環型社会の実現を目指す <ul style="list-style-type: none"> ・2016年から、世界展開に向けた2つのプロジェクトを開始 ・Toyota Global 100 Dismantlers*2 Project ・Toyota Global Car-to-Car Recycle Project *2 Dismantlers (ディスマントラーズ) : フルマなどの解体業者
 CHALLENGE 6 人と自然が共生する未来づくりへ	自然保全活動の輪を地域・世界とつなぎ、そして未来へつなぐ 【取り組み】 「自然共生活動」「環境活動助成」「環境教育」の3つの柱の自然保全活動の充実を図る <ul style="list-style-type: none"> ・2016年から3つの「つなぐ」プロジェクトを展開 ・地域をつなぐ「Toyota Green Wave Project」 ・世界とつなぐ「Toyota Today for Tomorrow Project」 ・未来へつなぐ「Toyota ESD*3 Project」 *3 ESD (Education for Sustainable Development) : 持続可能な開発のための教育

トヨタ環境チャレンジ2050に関連する主なSDGs:



選定されたSDGs未来都市

緑字：SDGs未来都市（自治体SDGsモデル事業含む）
 青字：SDGs未来都市
 ※道県が選定されている場合は道県全域を着色。



	都市名	提案タイトル
自治体SDGsモデル事業含む	北海道ニセコ町	環境を生き、資源、経済が循環する自治のまち「サステナブルタウンニセコ」の構築
	北海道下川町	未来の人と自然へ響くもかわりチャレンジ2030
	神奈川県	いのち輝く神奈川 持続可能な「スマイル100歳社会」の実現
	神奈川県横浜市	SDGs未来都市・横浜 ～「連携」による「大都市モデル」創出～
	神奈川県鎌倉市	持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造
	富山県富山市	コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現
	岡山県真庭市	地域エネルギー自給率100% 2030「SDGs」未来都市真庭の実現～永続的に発展する真山村のモデルを目指して（私がわたしらしく生きるまち）～
	福岡県北九州市	北九州市SDGs未来都市
	長崎県佐賀市	老健活き対話型社会「老健（粋）なSociety5.0」
	熊本県小国町	地熱と森林の恵み、人とのつながりがもたらす持続可能なまちづくりを目指して
SDGs未来都市	北海道	北海道価値を活かした広域SDGsモデルの構築
	北海道札幌市	次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市・「環境首都・SAPPORO」
	宮城県東松島市	全世代グローバルシティ東松島
	秋田県仙北市	IoT・水素エネルギー利用基盤整備事業
	山形県飯沼町	農村計画研究所の再興『2030年も「日本で最も美しい村」であり続けるために』
	茨城県つば市	つばSDGs 未来都市先導プロジェクト
	石川県珠洲市	船登の尖端「未来都市」への挑戦
	石川県白山市	白山の恵みを次世代へ贈る「白山SDGs未来都市2030ビジョン」
	長野県	学びと自治の力による「自立・分散型社会」の形成
	静岡県静岡市	「世界に輝く静岡」の実現 静岡市5大構想×SDGs
	静岡県浜松市	浜松が「五十年、八十年先の『世界』を築ます」
	愛知県豊田市	みんながつながる ミライにつながるスマートシティ
	三重県志摩市	持続可能な御食国の創生
	大阪府堺市	「自由と自治の精神を礎に、誰もが健康で活躍する笑顔あふれるまち」
	奈良県十津川村	持続可能な森林保全及び観光振興による十津川村SDGsモデル構想（仮称）
	岡山県岡山市	誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまちおかやまの推進
	広島県	SDGsの達成に向けて平和の活動を生み出す国際平和拠点ひろしまの取組を加速する～マルチステイクホルダー・パートナーシップによるSDGsの取組の強化～
	山口県宇部市	「人材が宝」みんなで作る宇部SDGs推進事業～「共存同楽・協同一致」の異なる進化～
徳島県上勝町	SDGsでSHLs (Sustainable Happy Lives) 持続可能な幸福な生活	

自治体SDGsモデル事業の例

北海道下川町

SDGsパートナーシップによる良質な暮らし創造実践事業

- ICTやIoTを活用した伐採・造林から加工流通林業のシームレス産業化、健康省エネ住宅の主流化、除雪体制や災害対応、森林バイオマスを中心とした再生可能エネルギーの利用拡大等の事業について、SDGsパートナーシップセンターを構築・活用し、各側面における相乗効果を発揮しながら推進する。

<取組課題>

人材育成と先端技術導入による
収益向上と地消地産の循環型経済

経済

循環型経済

人材確保、
生産性

- 林業の川上～川下のシームレス産業化
- 農産物の地域循環型流通
- 地域内経済循環を促すポイントシステム導入
- 多様な人材登用、生産効率向上に向けた先端技術導入実証



林業のシームレス産業化



一の橋バイオビレッジ

<取組課題>

森林バイオマスを中心とした脱炭素社会

脱炭素

ゼロエミッション

- 森林バイオマス利用拡大
- 一の橋バイオビレッジ脱炭素コミュニティ
- 省エネ家電レンタルシステム構築
- ゼロエミッションとエシカル消費促進

環境

<取組課題>

誰もが希望を持ちながら健康で
安心して暮らせる社会条件整備

社会

住まい

安心・安心

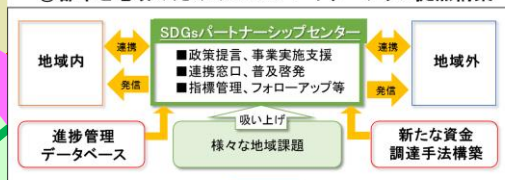
人材育成

- 居住環境計画、健康省エネ住宅の推進
- 医療介護福祉連携強化、子育て支援
- 除雪システム高効率化、レジリエンス強化
- 未来人材育成、町民参加推進

三側面をつなぐ統合的取組
①都市と地域のためのSDGsパートナーシップ拠点構築
②一の橋集落における多様な地域人材登用による産業創出

SDGsパートナーシップセンターにより内外の主体が連携し、地域課題の解決を目指す。

①都市と地域のためのSDGsパートナーシップ拠点構築



実践の場

②一の橋集落における多様な地域人材登用による産業創出



SDGsに取り組む意義

- 活動のLegitimacy（正当性）や公共性（への貢献）を示すことができる
 - 企業にとってのメリット
 - 持続不可能な活動に対抗するための「外圧」として利用できる
- SDGsは共通言語
 - 異なるステークホルダーとの協働・連携につながる
 - 多様な国で、発展に持続的に貢献出来ることを示せる（開発途上国の開発戦略への結びつけもやりやすくなり、市場開拓にもつながる）
 - 目標によるタグ付け（同じ目標への活動を集める）、ベストプラクティスや課題の共有で、課題解決のスケールアップや連携を可能にする

「CSR」での「マッピング」と見える化

社会課題に応える伊藤園

伊藤園グループは、国際目標(SDG)を適用して、7つの目標(以下、中核目標)に別れて、事業活動の方向性を明確に設定し、社会課題の解決に取り組んでいます。また、中核目標の1人、2人、3人、4人、5人、6人、7人の各分野及びその各分野の各分野を並走するとして、社会課題と事業活動の両方実現を目指す共有目標の達成(CSV)を実現しています。

伊藤園グループのCSR CSVとSDGs

社会課題
日本の課題
高い高齢化率 **40%**
高齢化に伴って労働力が減少し、SDG15(持続可能な消費と生産)の観点から、労働力の確保、生産性の向上、労働環境の改善などが求められています。
高い食料自給率 **39%**
食料の安定供給と持続可能な生産が求められています。食料の安定供給と持続可能な生産が求められています。
気候変動によるCO2削減 **-26%**
気候変動に伴って、気候変動による被害が増えています。気候変動に伴って、気候変動による被害が増えています。

CSR推進
伊藤園グループは、SDG15(持続可能な消費と生産)の観点から、労働力の確保、生産性の向上、労働環境の改善などが求められています。また、中核目標の1人、2人、3人、4人、5人、6人、7人の各分野及びその各分野の各分野を並走するとして、社会課題と事業活動の両方実現を目指す共有目標の達成(CSV)を実現しています。



世界の課題
2050年に予想される気温上昇 **2℃**
気候変動に伴って、気温が2℃上昇すると、世界の平均気温が1.5℃から2.0℃上昇し、海面上昇、干ばつ、洪水、農業の減少などの被害が予想されています。
相対的貧困率 - 世界平均 **11%**
世界平均の相対的貧困率は11%です。伊藤園グループは、相対的貧困率の削減に取り組んでいます。
毎年産出される食料 **13億トン**
毎年13億トンの食料が消費されています。食料の安定供給と持続可能な生産が求められています。
地球に生息する人口 **19億人以上**
地球に生息する人口は19億人以上です。持続可能な生活が求められています。

先進国・発展途上国共通の2030年への目標：持続可能な開発目標 (SDGs)

SDG 1: 貧困削減	SDG 2: 食料の安定供給	SDG 3: 健康増進	SDG 4: 質の高い教育
SDG 5: ジェンダー平等	SDG 6: きれいな水と衛生	SDG 7: 安全で持続可能なエネルギー	SDG 8: 働きがいと経済成長
SDG 9: 産業、イノベーション、基盤施設	SDG 10: 格差の是正	SDG 11: 持続可能な都市と地域	SDG 12: 持続可能な消費と生産
SDG 13: 気候変動対策	SDG 14: 海洋資源の持続可能な利用	SDG 15: 陸域生態系の持続可能な利用	SDG 16: 平和と公正
SDG 17: パートナーシップの推進			

Examples of our SDG Ambassadors include:



- SDG 1. Per Borgklint**
Senior Vice President and Head of Segment and Business Unit Support Solutions
- SDG 2. Rima Qureshi**
Senior Vice President, Chief Strategy Officer, Head of Group Function Strategy and Head of M&A
- SDG 3. Angel Ruiz**
Head of Region North America
- SDG 4. Elaine Weidman-Grunewald**
Vice President Sustainability and Corporate Responsibility
- SDG 5. Valter D'Avino**
Head of Ericsson Region Western and Central Europe
- SDG 6. Anders Thulin**
Senior Vice President, Chief Information Officer and Head of Group Function Business Excellence and Common Functions
- SDG 7. Arun Bansal**
Head of Business Unit Radio
- SDG 8. Jan Frykhammar**
Executive Vice President, Chief Financial Officer and Head of Group Function Finance
- SDG 9. Ulf Ewaldsson**
Senior Vice President, Chief Technology Officer and Head of

パナソニック RENOVA 再生可能エネルギー施設の開発事業で環境と地域に貢献

レノバについて 地域との共生 企業情報 採用情報
IR情報 開発現場から ニュース お問い合わせ
トップページ > 事業案内 > SDGsへの取り組み

- 7. 再生可能エネルギー
- 13. 気候変動対策

SDGs実現への行動をすすめる発想（企業・自治体）

1. SDGsは2030年の世界のカたち
 - 現状とのギャップこそがビジネスチャンス
 - 未来を先取りすることでメリットを：将来の標準を先取り
 - 17の視点へと視野を広げることでチャンスも拡大
2. 中長期経営計画/自治体総合計画／基本計画への反映
 - SDGs課題の解決が中長期的に社会的要求の高い課題
3. リスクへの対応
 - マネジメントリスク・レピュテーションリスク
4. 商品・製品・市場の開拓
5. 投資を呼び込む
 - サステイナブル投資が急増傾向
6. SDGsリーディングカンパニー・自治体としてのブランディング・宣伝効果
 - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー
7. 指標の設定
 - 社内→業界→世界的認証／標準化制度構築
 - 表彰や優良事例／トップランナー制度による誘導

価値創造サイクル

ANAグループが取り組むべき「重要課題」を特定し、
事業の推進役となる人財を活かして4つの強みを最大限に引き出しながら、
中期的な成長戦略を推進しています。
このサイクルを通して社会的・経済的価値を同時に創造し、成長し続けることで、
「持続可能な開発目標 (SDGs)」にも貢献していきます。

持続的な
企業価値向上



大和ハウス工業

エンドレス グリーン プログラム 2018		環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”	
管理指標	2018目標	2030年(マイルストーン)	2055年(最終のゴール)
売上高あたりCO ₂ 排出量 (2005年度比)	▲55%※	売上高あたりCO ₂ 排出量を 2005年度比▲67%	売上高あたりCO ₂ 排出量を 2005年度比▲80%
CO ₂ 排出量(再生可能エネルギー相殺後) (2005年度比)	▲35%※		
購入電力に対する再生可能 エネルギー発電割合	60%※	購入電力量を上回る再生可能 エネルギー発電	グループCO ₂ 排出量の ネット・ゼロの実現
CO ₂ 削減貢献量	470万t-CO ₂ ※	新築建物の使用時CO ₂ 排出量のネット・ ゼロ(戸建は2025年)	CO ₂ 排出ゼロの街づくりの普及

SDGsへの貢献
※詳しくはP121参照



7.2
7.3



11b



13.1
13.3

※2016年度の実績が2018年度目標を上回ったため、2018年度目標を上方修正しました。

095 DaiwaHouseGroup Sustainability Report 2017

エンドレス グリーン プログラム 2018		環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”		
管理指標	2018目標	2030年(マイルストーン)	2055年(究極のゴール)	
売上高あたり建設廃棄物排出量(生産)(2012年度比)	▲4.0%※	住宅・建築物のライフ サイクルにおける廃棄物の ゼロエミッション	全事業において廃棄物の ゼロエミッション	
施工面積あたり建設廃棄物排出量(新築)(2012年度比)	▲27.0%※			
リサイクル率	生産			95%以上
	新築			
	土木			
	解体			
改修	85%以上			
売上高あたり水使用量(2012年度比)	▲24.0%※	サプライチェーンを通じたグローバル水リスク管理		
長期優良住宅認定率	90%	住宅・建築物の長寿命化		
システム建築重点用途採用率	32%※			

SDGsへの貢献
※詳しくはP121参照



11.3
11.6



12.2
12.4
12.5

※対象範囲の見直し等に伴い目標値を修正しています。

109 DaiwaHouseGroup Sustainability Report 2017

富士フイルムホールディングス

2030年をターゲットとする長期目標を策定。マテリアリティ特定において負の影響を調査



SVP2030 重点課題の位置づけ

	事業を通じた社会課題の解決 主として、成長のための機会 (opportunities)ととらえられる分野	事業プロセスにおける環境・社会への配慮 主として、社会への負荷(risks)と とらえられる分野	SDGsへの貢献
環境	1. 気候変動への対応 (社会のCO ₂ 排出量の削減) 2. 資源循環の促進 (社会での水処理に貢献) 3. 脱炭素社会の実現を目指したエネルギー問題への対応	1. 気候変動への対応 (富士フイルムグループのCO ₂ 排出量の削減) 2. 資源循環の促進 (富士フイルムグループの水・廃棄物・資源投入量の削減) 4. 製品・化学物質の安全確保	
健康	1. アンメット・メディカルニーズへの対応 2. 医療サービスへのアクセス向上 3. 疾病の早期発見への貢献 4. 健康増進・美への貢献	5. 健康経営の推進	
生活	1. 安全・安心な社会づくりへの貢献 2. 心の豊かさ・人々のつながりへの貢献		
働き方	1. 働きがいにつながる環境づくり (ソリューション・サービス提供)	2. 多様な人材の育成と活用	
事業活動の基盤			
サプライチェーン	環境・倫理・人権等のCSR基盤をサプライチェーン全体にわたって強化する		
ガバナンス	オープン・フェア・クリアな企業風土をさらに浸透させることで、ガバナンス体制を改善・堅持する		

SVP2030の特徴

- **長期目標(2030年度)の設定**
 - ・社会課題の解決を長期視点でとらえ、全社員のイノベーションにより、社会へ変革を促す企業を目指す。
 - ・国際的な社会課題の目標(パリ協定、SDGsなど)の基準年である2030年をターゲット年度とする。
- **地球規模の環境課題は、2030年度に向けた数値目標を設定**
- **「環境」「健康」「生活」「働き方」の4分野に「サプライチェーン」「ガバナンス」を加え、15重点課題を設定**
 - ・「事業を通じた社会課題の解決」と「事業活動により生じる負荷の軽減」の両面を考慮し、重点分野を再設定した。
 - ・グローバル企業として、社会や顧客から、サプライチェーン全体にわたるCSR視点(環境・倫理・人権等)での管理強化を求められており、「サプライチェーン」を重点分野に据えた。
 - ・オープン、フェア、クリアな企業風土のさらなる浸透を目指し「ガバナンス」を重点分野に加えた。

バリューチェーン全体にわたる事業プロセスにおける影響の検討(例:環境)

	調査	R&D・製造	輸送	お客様使用時	廃棄・回収
正の影響(貢献)		環境配慮設計		CO ₂ 削減製品	資源回収(再資源化)
		環境対応ノウハウ(LC全体)		水使用削減製品	有価物化
				健康課題関連製品	再資源化ノウハウ
				その他環境・社会課題関連製品	
負の影響(負荷)	原材料(AL)のCO ₂ 排出	生産、研究開発時のCO ₂ 排出	輸送時のCO ₂ 排出	使用時の電力(CO ₂ 排出)	焼却時のCO ₂ 排出
		製造時の投入排水		使用時の投入排水	廃液の処理(回収)
		化学物質(管理)			
		大気汚染物質排出			

※SDGコンパスを参考に、事業プロセスにおける負の影響と事業を通じた社会貢献の正の影響の両面から重点課題を検討

SDGs実現への行動をすすめる発想（企業・自治体）

1. SDGsは2030年の世界のカたち
 - 現状とのギャップこそがビジネスチャンス
 - 未来を先取りすることでメリットを：将来の標準を先取り
 - 17の視点へと視野を広げることでチャンスも拡大
2. 中長期経営計画/自治体総合計画／基本計画への反映
 - SDGs課題の解決が中長期的に社会的要求の高い課題
3. リスクへの対応
 - マネジメントリスク・レピュテーションリスク
4. 商品・製品・市場の開拓
5. 投資を呼び込む
 - サステイナブル投資が急増傾向
6. SDGsリーディングカンパニー・自治体としてのブランディング・宣伝効果
 - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー
7. 指標の設定
 - 社内→業界→世界的認証／標準化制度構築
 - 表彰や優良事例／トッパー制度による誘導

15:42

event.rakuten.co.jp

R

未来を変える買い物を。
EARTH MALL with Rakuten

EARTH MALLって何? カテゴリーから探す 未来を変える読み物 認証ラベルを知ろう

楽天市場トップ EARTH MALL



未来を変える読み物

キュレーターPicks!

EARTH MALL キュレーターとは

EARTH MALL キュレーターが 未来を変える商品を紹介

EARTH MALLキュレーター
 末吉里花さん
 一般社団法人エシカル協会 代表理事
 慶應義塾大学総合政策学部卒業。TBS系『世界ふしぎ発見!』のミステリーハンターとして世界各地を旅した経験を持つ。フェアトレードやエシカルを中心に活動を展開し、日本全国の企業や高校、大学などで講演、各地のイベントでトークショーを行う。



楽天市場トップ > Earth Mall

未来を変える買い物を。
EARTH MALL with Rakuten



スローガン 「未来を変える買い物を」

商品

- 国際認証を受けた商品が買える
- キュレーターの皆様が選んだ商品が買える

記事

- サステナブルな商品やライフスタイルを知る

MSC認証

水産資源や海洋環境を守って
獲られた水産物



ASC認証

責任ある養殖によって
生産された水産物



FSC認証

適切に管理され
た森林の木材



国際フェアトレード認証

フェアトレード商品



RSPO認証

持続可能なパーム油



GOTS認証

オーガニック・テキスタイル



ここでも「サステイナブルな商品」「SDG12にかなう商品」とは何かという基準は今後必要

SDGs実現への行動をすすめる発想（企業・自治体）

1. SDGsは2030年の世界のカたち
 - 現状とのギャップこそがビジネスチャンス
 - 未来を先取りすることでメリットを：将来の標準を先取り
 - 17の視点へと視野を広げることでチャンスも拡大
2. 中長期経営計画/自治体総合計画／基本計画への反映
 - SDGs課題の解決が中長期的に社会的要求の高い課題
3. リスクへの対応
 - マネジメントリスク・レピュテーションリスク
4. 商品・製品・市場の開拓
5. SDGsリーディングカンパニー・自治体としてのブランディング・宣伝効果
 - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー
6. 投資を呼び込む
 - サステイナブル投資が急増傾向
7. 評価・指標の設定
 - 社内→業界→世界的認証／標準化制度構築
 - 表彰や優良事例／トップラナー制度による誘導

企業行動評価／SDGs認定 を行う上では・・・

1. Goal-based Governance : 目標設定からスタート
 - SDGs (の考え) に基づく目標があるかどうか？
2. Indivisible Whole : 17視点から総合的に考えること
 - 少なくとも「経済」「社会」「環境」各分野の持続可能性を考えたアクションとなっているか？
3. 測る
 - 目標の進捗を測っているか (ビッグデータなど新たな測り方の可能性も含めて)

関東経済産業局／長野県の取組

SDGs推進企業を認定する

SDGs企業たる企業活動



SDGs企業たる企業活動の基準

- 目標にコミットしているか？【1】
- 経済・社会・環境面で（あるいはそれらを統合した）目標があるか？【2】
 - ✓ 「コミット」をどう測るか？制度設計で測る？
- 目標進捗を測っているか？【3】
 - ✓ 進捗が芳しくない場合どうするか？

SDGs企業としての実績

- 「SDGsに向かっている」ことを示す最低限の実績をチェック
- 認証制度でこれらを代替できる可能性もある

SDGs企業としてのフィロソフィー
や実績

<認定企業イメージ>

ex. 印刷中小企業者が、[FSC森林認証紙](#)や[ノンVOCインキ（石油系溶剤0%）](#)を使用した環境印刷に取り組むとともに、[\[4か国語版お薬手帳\]](#)等のSDGsを意識した新製品開発も実施。さらには、[非正規労働者から正規労働者への登用制度](#)を設け、従業員が活躍できる職場環境を整備（[職場いきいきアドバンスカンパニー制度認証取得](#)で代替可）している。

オランダ中央銀行によるSDGsインパクト測定 ワーキンググループのメンバー






6. Working Group members

The organizations below propose the core set of indicators for quantifying positive impact for further discussion among a wider set of experts and professional networks.







オランダ中央銀行によるSDGsインパクト測定ワーキンググループによる成果（インパクト指標）（2018年10月4日現在）

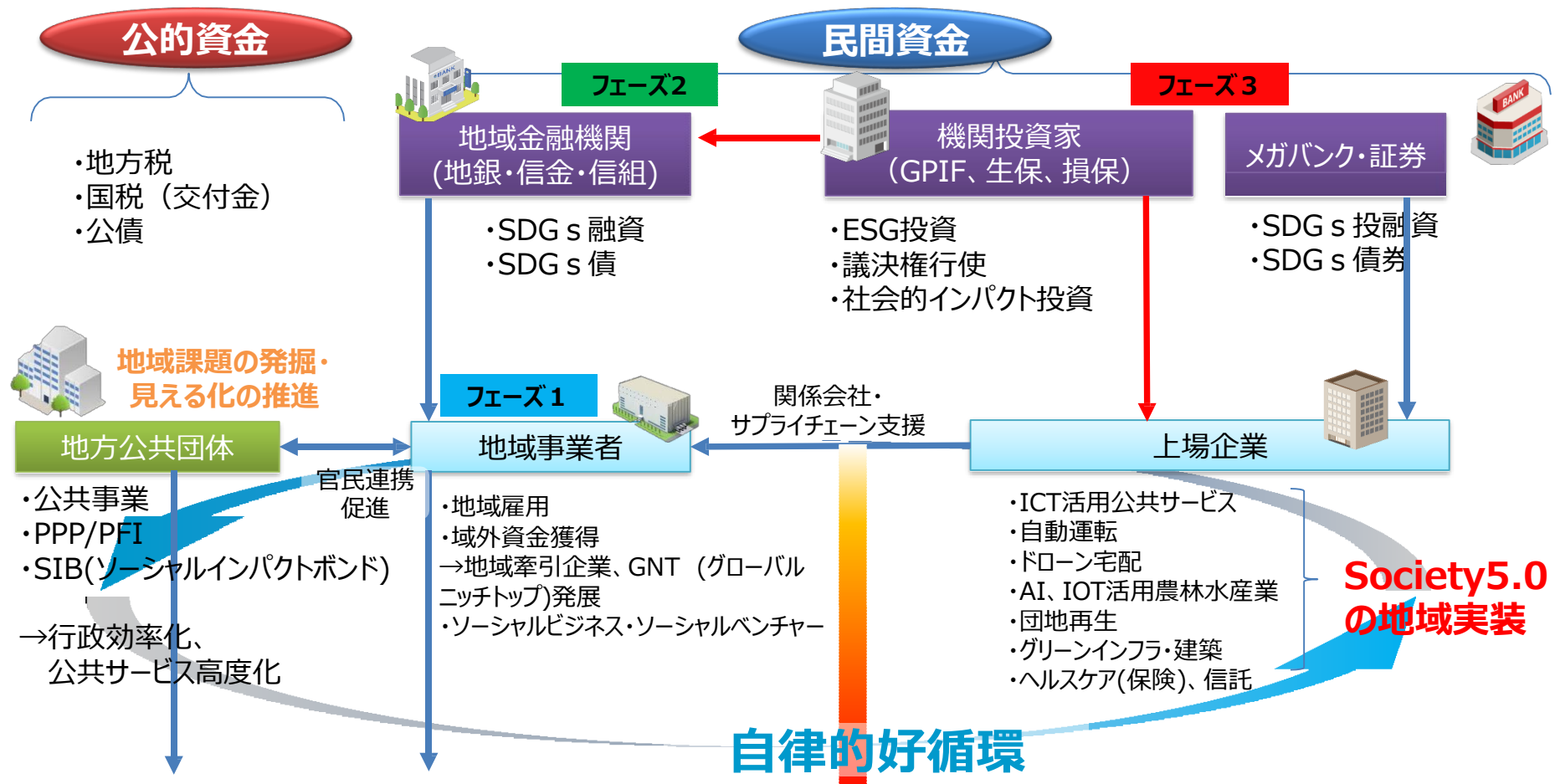
5. Impact indicators per SDG

	Product (or service) Impact indicator (PI) or Operational Impact indicator (OI, in italics)	Breakdown to gender (G), vulnerability (V), income group (I) or location (L), according to UN (☑) or Working Group (✓)				Unit of measurement for aggregation
		G	V	I	L	
 1 NO POVERTY	1.1 % of revenue from products serving low income groups			✓		€
	1.2 Number of people provided with access to financial services, incl. microfinance	☑ ¹⁸	☑	☑	☑	# people
 2 ZERO HUNGER	2.1 Number of people provided with safe, nutritious and sufficient food					# people
	2.2 Ecologically sustainable agricultural production per hectare		☑			tonnes
	2.3 % avoided harvest, transport, storage losses					tonnes
	2.4 % products with certified improvements in nutritional value					€ (from % revenues)
 3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING	3.1 Number of people reached with improved health care	☑ ¹⁹		☑		# people
	3.2 Cost reduction for standard treatments and medicines					€
 4 QUALITY EDUCATION	4.1 Number of people receiving education services (split pre-school, primary, secondary, tertiary, vocational)	☑ ²⁰	☑			# people
	4.2 % students attaining standard for education level					# people
	4.3 Education facilities for inclusive and effective learning environments					m2
 5 GENDER EQUALITY	5.1 % women in workforce (full-time equivalent), employed at equal pay (OI)	☑				# people

6 CLEAN WATER AND SANITATION 	6.1 Number of people provided with safe and affordable drinking water			✓	# people
	6.2 Number of people provided with adequate and equitable sanitation	☑		✓	# people
	6.3 Volume of water saved			✓	m3
	6.4 Volume of wastewater treated for reuse				m3
7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY 	7.1 Renewable energy produced				MWh
	7.2 Avoided greenhouse gas emissions				tonnes CO ₂ eq
	7.3 Number of people with access to affordable, reliable and modern energy services			✓	# people
8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH 	8.1 Number of loans, deposits or insurance products in line with SDGs			✓	# people or €
	8.2 Number of jobs created (full-time equivalent) (OI)				# people
	8.3 % of employees earning living wage (OI)	✓		✓	# people
9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE 	9.1 Length of sustainable road construction with equitable access			✓	km
	9.2 Length of rail construction				km
	9.3 Number of first-time internet connections	☑ ²¹		☑	# people
	9.4 R&D expenditure in line with SDGs, as % of sales (OI)				€
10 REDUCED INEQUALITIES 	10.1 Number of jobs created (full-time equivalent) in low-income areas, among disadvantaged groups, incl. minorities, refugees (OI)	☑			# people
	10.2 Number of local SME suppliers and smallholder farmers in supply chain (OI)	☑			# people
11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES 	11.1 Number of people with access to safe, affordable and sustainable housing		✓		# people
	11.2 Number of people with access to sustainable transport systems				# people
	11.3 Floor space of green real estate				m2

Source: [Dutch Central Bank \(2018\) "SDG Impact Indicators: A guide for investors and companies"](#)

12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION 	12.1 Avoided resource waste					tonnes
	12.2 Avoided emissions to air (other than greenhouse gases)					tonnes
	12.3 Avoided emissions to water					tonnes
	12.4 % input materials sourced sustainably or recycled (OI)					tonnes
	12.5 Reduction of hazardous materials used (OI)					tonnes
13 CLIMATE ACTION 	13.1 Water storage capacity					m3
	13.2 Flood-resilient floor space					m2
	13.3 High-risk assets with climate insurance cover				✓	€
14 LIFE BELOW WATER 	14.1 Avoided or reduced marine and fresh water pollution (ecotoxicity, eutrophication)					km2
	14.2 % of biodiversity loss avoided or reduced					# species
15 LIFE ON LAND 	15.1 Avoided or reduced land pollution (ecotoxicity, acidification, salinization, transformation)					km2
	15.2 % of biodiversity loss avoided or reduced					# species
	15.3 Certified afforested or reforested land					km2
16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS 	Not directly investible					
17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS 	Not directly investible					



地域の社会的課題を解決する企業・事業の拡大

- ① 少子高齢化の下での地域経済の活性化
- ② 女性、高齢者、障がい者活躍支援
- ③ 災害に強いまちづくり

地方創生SDGs達成に向けた取組の一層の推進

熊本地震からの回復企業の特徴 －SDGs「的」なことをやっている－

マーケティング	明	暗
1. 市場	△	△
2. 商品	△	△
3. チャンネル等	△	△

イノベーション	明	暗
1. ICT活用	△	△
2. 生産技術	△	△
3. チャンネル	△	△
4. 異業種連携	△	△

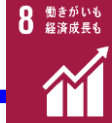
地域社会の持続可能性	明	暗
1. 働き方改革	○	×
2. 社会との一体感	○	×
3. 環境への配慮	○	×

3. 解決の方向性

- 地震によって一変した外部環境への適応の優劣が、売上回復の明暗を分かち、その優劣は、「働き手」「環境」等への配慮が決め手となっていた。
- これは、マーケティングやイノベーションといった経済合理性の追求とは異なり、規模や業種の違いを超えた共通の経営課題である。
- そこで、売上回復に向け、異業種連携して課題解決に取り組むことを提案する。弊研究所は、その具体的手段として、「事業ニーズ共有化システム」を、HP上で提供している。



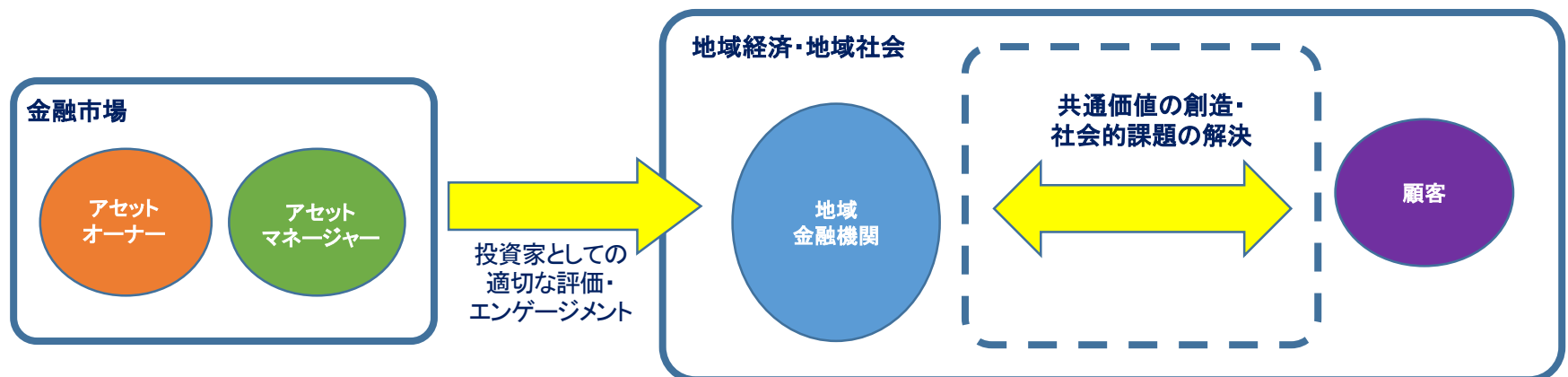
地域金融機関による顧客との「共通価値の創造」



- 足許、多くの地域金融機関にとって、長期化する低金利環境等の厳しい経営環境の下、**持続可能なビジネスモデルの構築**に向けた組織的・継続的な取組みが必要とされている
- こうした中、地域金融機関が顧客のニーズを捉えた付加価値の高いサービスを提供することにより、安定した顧客基盤と収益を確保する取組み（「**共通価値の創造**」）がより一層重要性を増しており、これは、**民間企業も社会的課題解決を担う主体と位置付けるSDGsの考え方と軌を一にするもの**



- 金融庁としては、**地域金融機関による事業性評価に基づく融資や本業支援**の取組みなどを引き続き促進
- また、金融市場においては、**機関投資家**が対話を通じて、こうした地域金融機関による共通価値の創造に向けた取組みを支援・促進する役割を果たすことが期待される





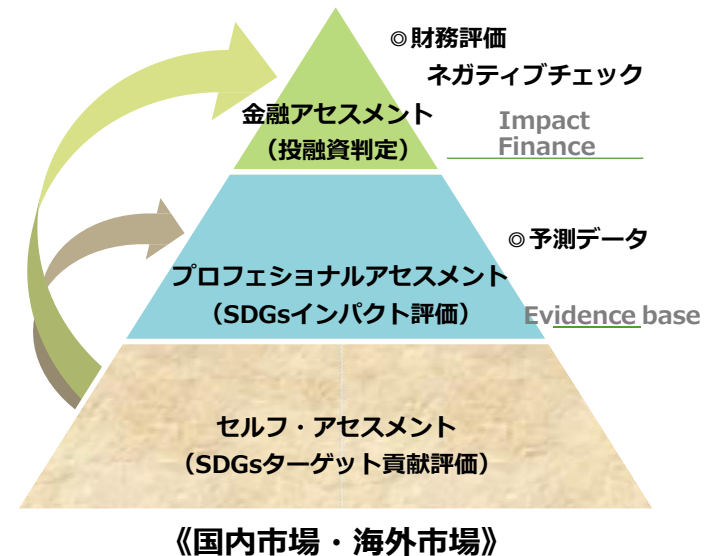
xSDGコンソーシアム金融プラットフォーム分科会

SDGsビジネスを加速させる仕組み

事業（プロジェクト）ベースの

SDGsによる

インパクト評価



金融xSDG

1. Goal-based Governance : 目標設定からスタート

➤ 地球の現状・今後への理解

2. Indivisible Whole : 17視点から総合的に考える

➤ 科学技術・イノベーションは整合的行動へのカギ

3. 測る

➤ SDGs達成に貢献する事業への投資

➤ 1. 2. をベースにした評価

